

「言語活動を活かした授業を目指して」

～伝え合い学び合う生徒をめざして～

保健体育科 廣瀬 尋理

北 恵子

1. テーマ設定の理由

保健体育科として昨年度も「言語活動を活かした授業を目指して」という主題のもと、研究を行ってきた。そこで目指していた生徒像というのはサブタイトルにもあるように「伝え合い学び合う生徒」であった。今年度もその方向性は変わらず、生徒同士で学んだことや身に付けたことを基に生徒同士で伝え合い、学び合う生徒、そのための授業にしていきたいと考え昨年度同様のテーマとした。

新学習指導要領の保健体育科の体育科の目標として、「運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、知識や技能を身に付け、運動を豊かに実践することができるようにする」とある。これは、1学年及び2学年において、それぞれの運動が有する特性や魅力に触れ、第3学年以降の自己に適した運動を選択できるようにするための基礎的な知識や運動の技能を身に付け、生涯にわたって運動を豊かに実践するために示したものである。そこで、本校保健体育科でも、昨年度から研究テーマを言語活動を活かした授業とし、各学年の発達段階と競技の特性を活かしながら「伝え合う活動」を行い、言語に関する能力の育成に取り組んできた。

保健体育科で「伝え合う活動」とは、ゲームの作戦や技術を習得するまでの過程において、よりよい動きやフォームなど自分の持つ課題の解決により近づけるためのポイントを確認し合い、何がどのようにになっているのか検証し伝え合うことである。そのため、見てもらう相手にどこのどんなところを見て欲しいのか、何と比べて欲しいのか、見るためのポイントを焦点化して取り組むことが、伝え合いをより効率の良いものとし、仲間と一緒に課題へ取り組んだ過程の達成感や取り組みの努力を共有することができるものになると考える。また、他者に伝えるときには、適切な表現で説明することが求められる。運動の技のポイントや方向性などは、資料や実演などで言葉などの共有を図れるが、それぞれが感覚として身に付けた「やりやすいポイント」については、自分が感じ得た感覚を言葉に変え相手に伝えなければならない。そこで、互いに伝え合い学び合うためには、体の動きを効率的に考察し、表現する能力を伸ばしたい。伝えたい動きの様子を効果的な動きとして勢いや速さ、タイミングや方向性などを言葉やイメージで表し、体の動かし方や運動の仕方を伝える力も必要であると考え。

2. 思考力を育むための指導と評価

(1) 教科として特に育みたい思考力について

中学校学習指導要領で保健体育科における思考力とは、各領域における「課題に応じて、これまでに学習した内容を学習場面で適用したり応用したりすること」である。今年度、保健体育科として育てたい思考力は「分析する」力である。上記のように昨年度、言語活動を活かした授業実践を行ってきた。しかしながら生徒から表出された言葉や文字以前に、生徒が何を見てどう考えたか、何を理由（根拠）にそうしようとしたのか、その部分をより育てていかないといけないと感じた。

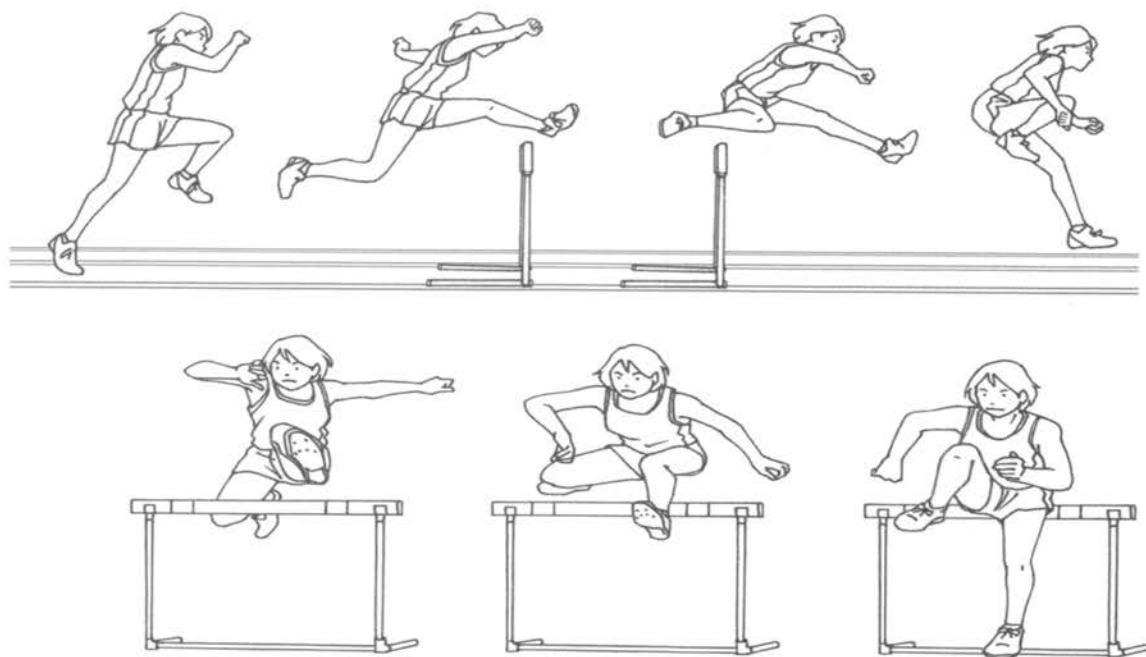
体育におけるその思考する出発点が「分析する」力であると考え。体育の授業における学習活動の中で、個々の運動における課題は多岐にわたる。自分や他者が何をどうしたらいいのか、そこが定まらないことには始まらない。逆にそこをしっかりと分析できればその後の活動は有意義なものになるだろう。新たな技能の構築を求められる体育という授業の中ではそのような力を求められる場面が多々ある。よってその力を育むことで、言語活動の充実につながり、そのことが新たな知識や技能の獲得につながると期待している。

(2) 思考力の指導

前述の通り、今年度は思考力の中で「分析する」力に焦点をあてた。「分析する」力を育む手だてとして黒上春夫のシンキングツールの中のデーターチャートを利用した。データーチャートとは情報整理表とも呼ばれ、複数の視点で物事をみつめ、整理する際に有効とされている。

その視点となるポイント、例えば足や手、目線など見るポイントをこちらから与え、それについて見本の図や写真、または前回撮った自分の姿と今の自分を比較することで「分析する」力を育むことをねらった。授業内容や身につけたい技能によって編集しワークシートとした。

下図はデーターチャートの考えに基づきハードル走のハードリング場面で利用したワークシートの一部である。それと自分の姿を対比させ、こちらが与えたポイントや見本の図と比較し分析させた。



思考力を育むための教科の方針としては、以下の流れで行った。

授業の最初に目指したい姿を提示する。そのために必要な知識を教え、ポイントを絞り込み、練習をしていく。その中でよりよい記録、姿、新たな技能を獲得するためにどうしたらいいのか、その自己の課題の発見を思考の場と主に設定し、前述のような手立てをとった。

また「分析する」を思考の出発点とし、その後分析したものを表現する点についても大事にしたいと考える。例えば相手に分かりやすく伝えるために言葉を選んだり、身体表現を用いたりするのも一連の思考として指導した。

(3) 思考力の評価について

前述のデータチャートの考えを基としたワークシートは連続写真になっており、そこに技のポイントや考えを書き込むため生徒がどの場面のどんな部分に気づいているのか、分析した後が残るようになっている。つまり自己の学習状況や達成度が分かり、また他の生徒からのアドバイスにより、自分では気づかなかった点や、他の生徒が感じている感覚やコツに触れることができる。その書き込みに対して形成的評価をし、またそれをもとに全体での共有やフィードバック、次時への支援にも活用した。

3. 授業実践

(1) 指導のポイント

1年生の男子陸上競技「ハードル走」、3年生の男子陸上競技「走り高跳び」では、自分の記録を伸ばすために無駄のない走り方・跳び方について自己の課題を見つけることを大きなねらいとして授業を行った。最初に試しの記録会を行い、その後記録を伸ばすために必要な各場面での知識を教えポイントの明確化を図った。また同時に動きの言語化を行い、子どもたちが使う動きに関する言葉についても共有をねらった。その後詳細に動きが分かるハイスピードカメラを用い、自己の競技中の姿を撮影し自己分析を行った。

【ポイントの明確化，動きの言語化】



【自己の競技中の姿を撮影】



【自己分析・ワークシートの記入】



(2) 本時の指導

実践した学年、単元、目標、本時の流れは以下の通りである。

授業実践 I

① 1年男子

単元 陸上競技「ハードル走」

目標 自己の課題を明確にしよう

本時の流れ

学習活動・内容	教師の指導・支援	時間
1. 準備運動・体操	股関節を中心に重点的に行う。	5
2. 各課題の練習および 動画撮影	助走、ハードリング、インターバルの3つに分かれ自分の課題のレーンで練習を行う。 グループごとに自分の競技中の姿を撮り合う。	20
3. 撮影したものを基に自己 分析を行う	撮影したものと見本の姿を比べ、ワークシートに課題であるところを書き込む。	15
4. まとめ	課題ごとに自分で見つけた課題を発表させ、共有させる。	10

② 3年男子

単元 陸上競技「走り高跳び」

目標 自己の課題を明確にし、他者に見てもらおう

本時の流れ

学習活動・内容	教師の指導・支援	時間
1. 準備運動・体操	股関節を中心に重点的に行う。	5
2. 各課題の練習および 動画撮影	はさみ跳び、背面跳びに分かれ自分の課題のレーンで練習を行う。 グループごとに自分の競技姿を撮り合う。	15
3. 撮影したものを基に自己 分析を行う	撮影したものと見本の姿を比べ、ワークシートに課題であるところを書き込む。	15
4. 他者に見てもらいアドバイ スを行う	撮影したものを他者に見てもらいアドバイスをもらう	10
5. まとめ	課題ごとに自分で見つけた課題を発表させ、共有させる。	5

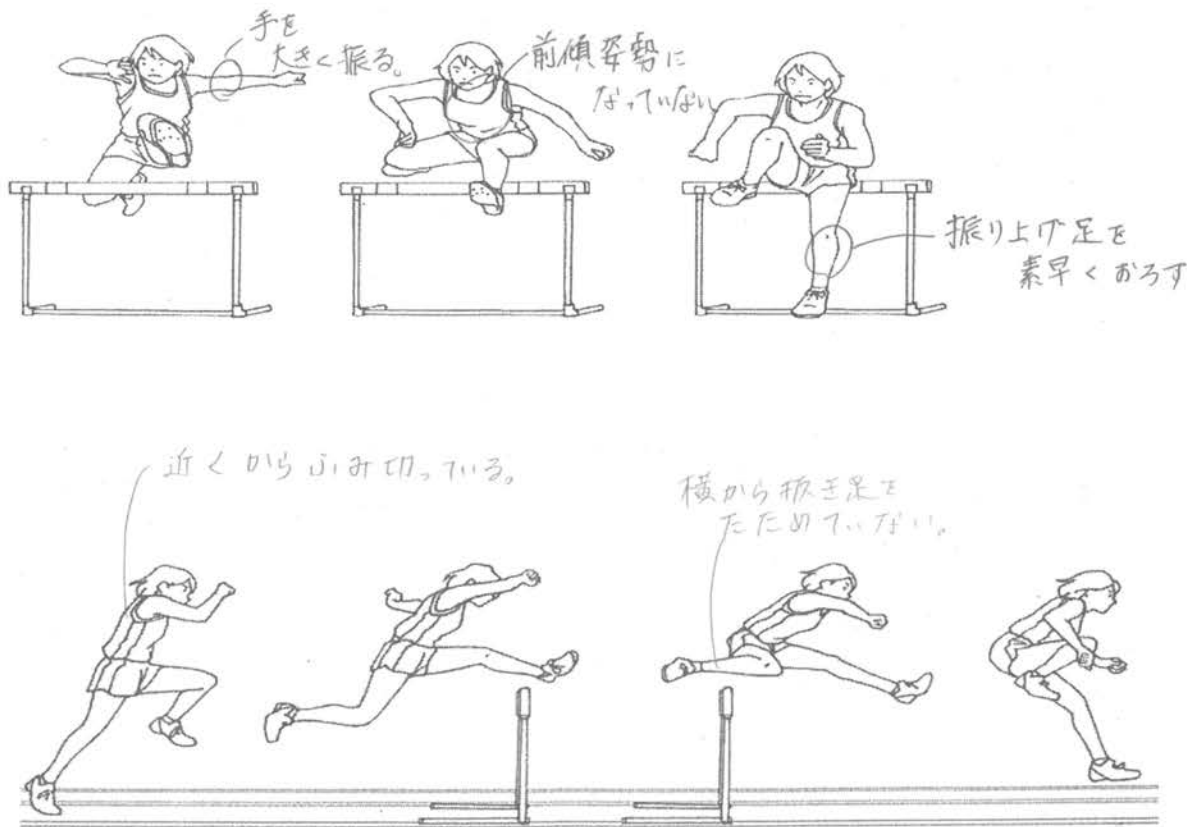
(3) 実践の記録

1年生のハードル走では自分の走りを自己分析することに絞り行った。3年生の走り高跳びでは自己分析だけでなく、他者からも見てもらい各々の分析する力を養い、また他者からの記述が新たな技能構築のヒントになることをねらった。

【授業実践の評価基準】

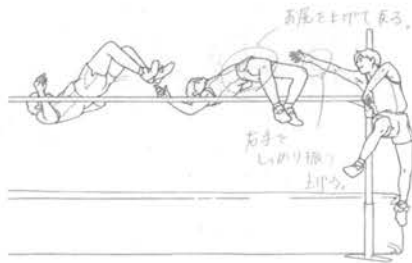
活動	充分満足な状況 (A)	おおむね満足 (B)	指導の手だて (C)
自己 分析を しよう	学習したポイントを基に自分の競技姿に課題を具体的に(根拠をもって)書き込んでいる。	学習したポイントを基に自分の競技姿に課題を書き込んでいる。	自己の競技姿と見本の資料を基に学習したポイントを確認する。

【ハードル走のワークシート一部】 自己の競技姿を前からと横から分析した

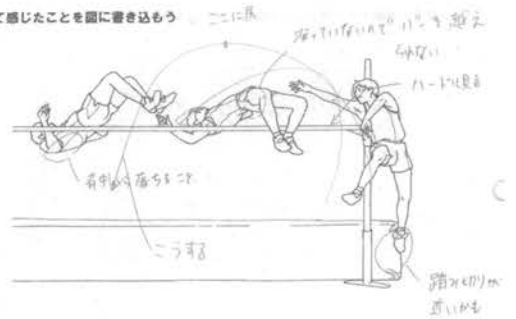


【走り高跳びのワークシート一部】 自己の競技姿を自らと他者で分析した

* 自分の映像を見て感じたことを図に書き込もう



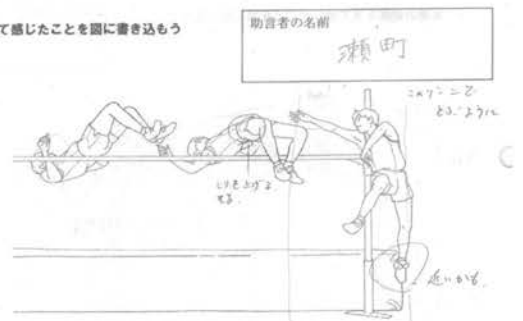
* 自分の映像を見て感じたことを図に書き込もう



* 友達映像を見て感じたことを図に書き込もう



* 友達映像を見て感じたことを図に書き込もう



授業実践Ⅱ

(1) 指導のポイント

器械運動の「マット運動」において、課題に応じた技能を習得するための練習場面で、視覚的に観察したことを分析し相手に伝え学び合う授業づくりを目指した。小学校における経験や中学校の授業で既習した事項を活かしながら、互いの課題解決に必要な技の効果的な動きを伝え合う学びの場面で、何を基にどのように表現していくのか、身に付けたい動きの具体例や比較するための資料を動画、そして図解で表した場面ごとの静止画で提示し活用させた。互いに伝え合う思考の流れを授業に活かす手立てとして、思考の流れを示す個人の振り返りのワークシートの記述で形成的な評価をしながら技術の習得だけでなく確かな知識の定着を図った。

課題に応じた技術習得活動のポイント

- ア. お互いの課題を伝え合いグループの仲間に観点を絞って見てもらうようにする。
- イ. よりよい動きにするためにアドバイスの基準となるタイミングや様子の伝え方（ワード）などを、事前に学習し共通理解をはかり伝えやすく伝わりやすい環境をつくる。
- ウ. 図解資料やカメラなどを使い、アドバイスを伝えるときに視覚的にも根拠をはっきりさせて理解を深めやすくする。

(2) 本時の指導

実践した学年、単元、目標、本時の流れは以下の通りである。

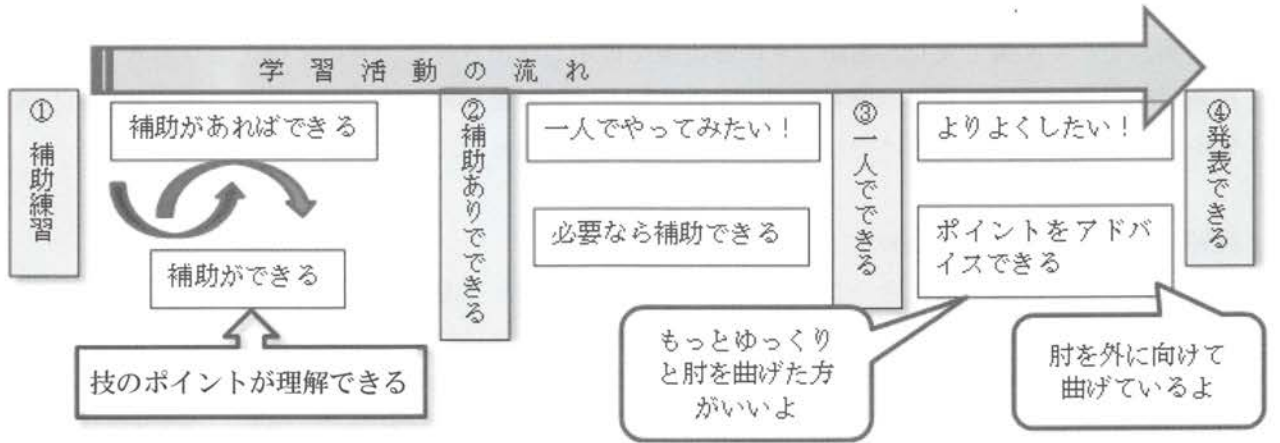
1年女子（1・2組 38名）

単元 器械運動（マット運動）

目標 自己の課題をグループで協力して練習しよう。

本時の流れ

学習活動・内容	教師の指導・支援	時間
1. 準備運動・体操	・班ごとに体操，準備運動（ストレッチ）のかかわり方を見て声かけを行う。	10
2. 基本の技の確認 倒立・・・補助の仕方	・技のポイントを確認し，修正するときに使ったら良い言葉（ワード）の確認をする。	10
3. グループ活動	・各自の課題をグループで確認させ場の使い方の助言をする。	20
4. 振り返り	・できたポイントや残された課題について具体的に書かせる。	5
5. まとめ	・友だちの良かったアドバイスを発表させて共通理解をさせる。	5



・思考の場面

「倒立」と「倒立前転」の補助の違いを理解し『傾きに合わせ肘を曲げる』と『背中を徐々につけていく』を実践し検証する。できない人のポイントが、肘の曲がる方向・肘を曲げるスピード・倒立への足の振り上げ方であることを確認し、アドバイスのポイントを焦点化し個人でタイミングが違うことや、できるだけ倒立をしっかりと立つための努力点も明確にし取り寄せた。

◆今回の授業実践の評価基準

運動についての思考力	十分満足な状況 (A)	おおむね満足 (B)	指導の手だて (C)
	倒立のポイントの手や足の振り上げの効果的な動き方のポイントを2つ以上見つけている。(ワークシート)	倒立の手や足のポイントの合理的な動き方を見つけ書いている。(ワークシート)	ポイントが書けない。 →技に必要な具体的な行動を教え、アドバイスの仕方をカードなどで示し確認させる。

(3) 実践記録

個人の課題解決に必要な基礎基本となる知識の習得と技術習得を同時に行うのではなく、技のやり方や必要な補助について全員で学び、できない生徒へのサポートでもあるが、その技のポイントや効率のよい動きを理解するための手立てでもある。そこで、個人の中に技に対する感覚とタイミングが理解されたうえで成り立つ言語活動で、いかに身に付けたい動きと共に活動する仲間の動きに違いがあるのか分析し、それを何(資料や画像)を基に比較し言葉や身体表現で伝えられるのかを実践した。それぞれの生徒の課題は多岐にわたるものの、技をコマ送りにしたワークシートやハイスピードカメラの動画を利用することで、伝えたいことが明確に可視化されることで伝える言語活動やコミュニケーションも円滑に行えるようになっていた。また、技のポイントを書き込むシートを使うことで、自分の取り組みを整理し、思考の流れも確認し形成的な評価と次の活動への支援となった。

4. 成果と課題

成果としては、分析することを足がかりに思考力の向上を図ったが、ポイントを明確にすることで生徒の見る視点が明確になり、記述はもちろんのこと、生徒同士の話し合いにおいても根拠をもって相手に伝える姿が多く見られた。またワークシートにわざのポイントを直接書き込むことで子どもがどこに着眼したか、子どもの思考が本人だけでなく他の生徒や教師にも分かりやすく、学習の達成度の把握にもつながった。またそれらを形成的評価とし全体へ共有しフィードバックも図りやすかった。また昨年度から「言語活動を活かした授業を目指して」ということで、言語活動のあり方を模索してきた。本来体育科が目指す教育とは主に体を動かすことで新たな知識・技能を獲得することを目指す教科である。言語活動を意図的に組み込むことで既習の知識・技能を活用する力を身につけ、そのことによって、新たな知識・技能を獲得または獲得に結びつくことを少しずつ教師が実感できるようになってきた。今後はただ体を動かすことだけでなく、思考することと体を動かすことで学習効率をより高めるように工夫が必要だと感じる。そのためにもっと運動量を確保した授業内容を考え、発達段階や単元の中でより効果的に思考する場面を設定した指導計画を立てる必要があると思う。